知床羅臼写真コンテスト 2022
受賞者発表

知床羅臼写真コンテスト 2022 に多くのご応募頂きありがとうございました。
厳選なる審査の結果、各賞が決定いたしましたので、ここに発表致します。

＜最優秀賞＞

「シャチと泳ぐ」早川徳幸

＜生き物部門賞＞

「火の鳥」佐藤章

＜自然・風景部門賞＞

「凍てつく羅臼岳」吉田恵人

＜スナップ部門賞＞

「おつかれ様です」大塚弘之

＜知床羅臼町観光協会会長賞＞

「朝日の中の狩り」山本雅朗

（一社）知床羅臼町観光協会

応募総数　135 点
（生き物部門 83 点、自然・風景部門 34 点、スナップ部門 18 点）

審査員講評

【全体を通して】

今年は応募総数も多く、作品一つ一つのレベルがかなり高いため見ごたえのある写真ばかりだった。特に、今年は何を被写体としてどう撮影するのか、目的をもって撮影している人が多い印象。ただ、その被写体を強調するためにどこにおくか、どのようにすれば羅臼を表現できるのかをいま一度考え、もう一工夫すれば、より良い写真になるだろう。

【最優秀賞】　「シャチと泳ぐ」早川徳幸

この場でこんな写真を撮りたいという、思い通りの画を撮れている。他の応募写真にはない、独特な視点からの写真でとても魅力的な 1 枚。羅臼という街を内側からしっかりと表現されており、唯一無二の作品となっている。普段は海に生息しているシャチと一緒に泳ぐことは不可能であるが、この作品はその夢を叶えた、遊び心が存分に表現されている。

【生き物部門賞】　「火の鳥」佐藤章

国後から美しく昇る朝日、その朝日を囲むように 2 羽の鷲が飛んでいる。画面の切り取り方がうまく、無駄なものが写っていない非の打ち所のない写真だ。また、鷲の羽一枚一枚のシルエットが浮き出ており、鷲のもつ魅力が大胆に表現されていて素晴らしい。

【自然・風景部門賞】　「凍てつく羅臼岳」吉田恵人

美しくそびえ立つ山は元旦の羅臼岳。寒さの厳しい時期の登山は容易ではないが、そんな中でも朝日と雪の美しい色づきを捉え、構図もしっかり考えられている。知床羅臼の雄大な美しさ・自然の厳しさが追及された作品である。

【スナップ部門賞】　「おつかれ様です」大塚弘之

冬の厳しい寒さが伝わってくるような写真。この環境下でカメラを取り出し、撮影する勇気を称賛したい。通常、吹雪の中の写真はモノトーンになりがちだが、灯台の赤がアクセントとなり全体の色調も良くなっている。また、鷲と人同士の互いの無関心から生まれる距離感も非常に興味深い。

【知床羅臼町観光協会会長賞】　「朝日の中の狩り」山本雅朗

黄金色に輝く空と海、そして鷲。冬の羅臼の魅力が詰まった一枚となっている。また、鷲の脚先から発生した水面の繊細な動きも捉えている。早朝の静けさや狩りが始まる緊張

感が上手く表現されており、大変素晴らしい。

審査員

審査委員長　石井　英二
副審査員長　関　　勝則
審　査　員　大野　貴史